

平成 27 年 10 月 28 日

# 静岡経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所  
理事長 鈴木一雄  
静岡市葵区追手町 1-13  
TEL 054-250-8750  
FAX 054-250-8770

## 静岡県内主要産業の四半期見通し調査（平成 27 年 10～12 月期）

海外経済の不安が高まり、  
県内産業景気は足踏み

中国経済の減速をはじめとする海外経済の変調から、株価下落など国内経済も影響を受けて、消費、生産とも盛り上がりを欠く展開が続いており、景気は全体的に足踏み状態にある。

なお、業種ごとの10～12月期の業界景気見通しは、全20業種が『横ばい』。

『好調』はなく、『順調』が3業種、『普通』が5業種、『低調』が11業種、『不調』が1業種の見通し。

業種	調査項目	業界景気	
		現況(7～9月)	見通し(10～12月)
製茶		● → ●	● → ●
食品・飲料		● → ●	● → ●
家庭紙		○ → ○	○ → ○
産業用紙		● → ●	● → ●
工作機械		○ → ○	○ → ○
民生用電器部品		○ → ○	○ → ○
自動車部品		● → ●	● → ●
二輪車部品		☂ → ☂	☂ → ☂
建設		○ → ○	○ → ○
住宅		● → ●	● → ●
大型小売店		● → ●	● → ●
食品スーパー		● → ●	● → ●
自動車販売		● → ●	● → ●
家電量販店		● → ●	● → ●
運輸・倉庫		● → ●	● → ●
情報サービス		○ → ○	○ → ○
外食		○ → ○	○ → ○
観光・レジャー		○ → ○	○ → ○
リース		● → ●	● → ●
人材派遣		○ → ○	○ → ○

担当：主席研究員 望月 毅



今月の定例調査 平成27年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

## 海外経済の不安が高まり、県内産業景気は足踏み

国内経済は、個人消費が盛り上がりせず、海外でも、中国の成長鈍化、欧州自動車メーカーの排ガス不正、EUの難民問題など不安材料が続々と出てきており、景気回復の足取りは総じて重い。県内産業景気も、個人の消費・投資、企業の生産活動ともに回復感が感じられず、動きが止まっている状況にある。こうした中、経済成長の推進力として安倍首相が「新3本の矢」を打ち出したものの、成長戦略に具体性が乏しく、国内景気は明確な方向性を見いだせないまま足踏みが続くそう。

### (1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現在（平成27年7～9月期）の業況は、『好調』業種はなく、『順調』が「工作機械」、「情報サービス」、「人材派遣」の3業種、『普通』が「家庭紙」、「民生用電器部品」、「建設」、「外食」、「観光・レジャー」の5業種、『低調』が「自動車部品」、「住宅」など11業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回（平成27年6月）調査との比較では、「工作機械」が『好調』から『順調』に下降、「外食」、「観光レジャー」が『低調』から『普通』に1ランク上昇した。

### (2) 業界景気の見通しについて

平成27年10～12月期の景気見通しは、主要20業種すべてが『横ばい』と、足踏みが続く見通しとなった。

『順調』のまま『横ばい』と見込まれるのは、アジア需要に陰りがみられるものの受注量自体は高水準が続く「工作機械」と、ソフトウェア開発の大型案件の需要が高まるとみられる「情報サービス」、製造やIT、介護などの分野で需要が高い「人材派遣」の3業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、価格修正が浸透した「家庭紙」、エアコン、冷蔵庫の出荷が堅調な「民生用電器部品」、災害対策工事の発注増加が予想される「建設」、大手チェーン店の巻き返して年末に向け来店客が増えそうな「外食」、晩秋から年末にかけてのレジャー需要の盛り上がり期待がかかる「観光・レジャー」の5業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、20業種中、半数を上回る11業種。11月に“全国お茶まつり”が県内開催されるものの、仏需や贈答用に盛り上がり欠ける「製茶」、輸入食材の値上がりが響く「食品・飲料」、在庫がやや多めの「産業用紙」、軽自動車の販売減少が尾を引く「自動車部品」、「自動車販売」、回復基調にあるが上向きの動きはごく緩やかな「住宅」、為替動向や天候不順などによる商品の割高感が客足に影響している「大型小売店」、「食品スーパー」、パソコンの苦戦が予想される「家電量販店」、主力の輸送機械の動きが鈍い「運輸・倉庫」、製造業での需要弱含みが続く「リース」の11業種が『低調』の見通し。

『不調』のまま『横ばい』の見込みは、東南アジアなどの新興国や不安材料の多い欧州向けが伸び悩むとみられるうえ、国内販売も長く低迷が続く「二輪車部品」1業種の見通し。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年次	平成24年	平成25年				平成26年				平成27年			
	四半期	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月(○は調査月)	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0
	順調 ○	0	0	1	2	4	5	1	1	2	1	2	3
	普通 ◐	3	2	1	3	6	7	5	5	4	4	3	5
	低調 ☁	15	16	17	14	9	6	13	13	13	13	13	11
	不調 ☂	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値	2.05	2.00	2.10	2.30	2.65	2.95	2.30	2.30	2.35	2.40	2.45	2.50
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
不調：1													
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	1	1	2	2	5	0	1	2	0	2	2	0
	横ばい →	19	18	17	17	15	12	19	18	20	18	18	20
	やや下降 ↘	0	1	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	下降 ↘	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7~9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10~12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。  
 調査時点…平成27年9月初旬  
 回答企業…県内主要20業種(131社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成 27 年 10 ～ 12 月 期 静 岡 県 内 主 要 産 業 四 半 期 見 通 し 調 査 一 覧 表

調 査 項 目 業 種	業界景気		静 岡 県 内 主 要 産 業 の 見 通 し									
	現 況 (7～9月)	見 通 し (10～12月)	生産量 (前7～9月期 対比伸び率)	売上高 (前7～9月期 対比伸び率)	生産量 (前7～9月期 伸 び 率)	売上高 (前7～9月期 伸 び 率)	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向 (前7～9月期対比)	製 品 価 格 の 動 向 (前7～9月期対比)	受 注 残 (ヵ月)
製 茶	☀ → ☀	☀	—	—	—	→	○	供給超過	過多	↘	↘	—
食品・飲料	☀ → ☀	☀	→	→	↗	↗	○	均 衡	適 正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	○	均 衡	過 多	→	→	0.1～1.0
工作機械	○ → ○	○	↘	↘	↔	↔	○	均 衡	適 正	→	→	1.5～7.0
民生用電器部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.3～3.0
自動車部品	☀ → ☀	☀	→	→	↘	↘	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.5
二輪車部品	☂ → ☂	☂	↗	↗	↘	↘	◇	均 衡	適 正	→	→	0.5～3.0
建 設	○ → ○	○	—	↗	—	↗	◎	均 衡	適 正	→	→	3.0～9.0
住 宅	☀ → ☀	☀	—	↗	—	↗	○	供給超過	適 正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☀ → ☀	☀	—	→	—	↗	—	供給超過	適 正	→	→	—
食品スーパー	☀ → ☀	☀	—	→	—	↗	—	供給超過	適 正	→	→	—
自動車販売	☀ → ☀	☀	—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
家電量販店	☀ → ☀	☀	—	→	—	↗	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	☀ → ☀	☀	—	↘	—	↘	○	均 衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	◎	需要超過	—	→	→	—
外 食	○ → ○	○	—	→	—	↗	—	均 衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	○ → ○	○	—	↘	—	↗	—	供給超過	—	↗	→	—
リ ー ス	☀ → ☀	☀	—	→	—	↗	—	—	—	—	—	—
人 材 派 遣	○ → ○	○	—	→	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準
好 調 ☀	上 昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順 調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需 要 超 過	過 少
普 通 ○	横 ば い →	横 ば い (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低 調 ☀	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供 給 超 過	過 多
不 調 ☂	下 降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

## 主要業種の現況と10～12月期の景況見通し

業種	業界天気	3年ぶり県内開催「全国お茶まつり」で健在アピールを
製 茶	☁	(現況)・冷茶の販売促進策が奏功し、7～9月の売上は前年水準を確保した模様。二番茶、三番茶相場は軟調で推移し、荒茶生産量は前年を下回った。なお、ミラノ万博イベントに静岡茶を出品するなど、PR活動が推進された。
	→ ☁	(見通し)・10～12月の製茶問屋の売上は、前年並みの見込み。需要期に入り家庭用は増えるが、仏需や贈答用は盛り上がり欠ける。なお、11月には「全国お茶まつり」が、3年ぶりに県内で開催される。茶業界が厳しい今こそ、「茶の都」健在を全国にアピールしたい。

業種	業界天気	ツナ缶生産量は、引き続き前年実績を上回る見込み
食 品 ・ 飲 料	☁	(現況)・7～9月の県内の食料缶生産量は、前年をやや上回った模様。主力のツナ缶は、消費税率引上げの反動減があった前年水準を上回ったが、農畜缶が、円安による原材料高の影響で苦戦した。飲料缶の生産量は前年を下回った。
	→ ☁	(見通し)・10～12月の県内の食料缶生産量は、前年を上回る見通し。主力のツナ缶は、円安に伴いタイからの輸入缶が減少すると見込まれ、前年実績を上回ると予想される。飲料缶は、工場改修により低水準だった前年実績を上回って推移するとみられる。

業種	業界天気	ティッシュペーパーの値上げには輸入品が障害に
家 庭 紙	○	(現況)・7～9月の家庭紙の生産量は、前年並みとなった模様。再生トイレ紙は価格修正が定着し、店頭価格も徐々に上昇してきた。一方で、ティッシュペーパーは輸入品の価格攻勢を受け、値上げは遅れている。
	→ ○	(見通し)・10～12月の家庭紙生産量は、ほぼ前年並みとなる見通し。値上げが浸透した再生トイレ紙は、需要期に入り繁忙しているが、生産量は前年と比較すれば同水準か。一方、ティッシュペーパーは、150組ものなど安価な輸入品が相場を押し下げ、値上げは容易ではなさそう。

業種	業界天気	段ボール原紙は在庫がやや多め、前年水準で推移か
産 業 用 紙	☁	(現況)・7～9月の産業用紙の生産量は、前年並みとなった模様。段ボール原紙は前年をやや上回った。加工食品は堅調に推移して前年比微増、飲料向けは前半猛暑も後半天候不順で前年程度。白板紙は、前年をやや下回ったとみられる。
	→ ☁	(見通し)・10～12月の産業用紙の生産量は、前年並みとなる見通し。段ボール原紙は、在庫がやや多めになっている模様。加工食品や通販などで底堅い需要が見込めるが、増産は見込みにくく前年水準での推移となる見込み。白板紙は、コンビニ向け等の伸長で前年水準程度は維持できる見通し。

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	メインのアジアが振るわず、前年を10%以上下回る見通し
工作機械	○	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を▲5～10%下回って推移した模様。外需は主力のアジア向けが不振で、前年を▲10%程度下回ったとみられる。一方、内需は自動車向けが好調を維持し、前年を+10%程度上回った。
	→ ○	(見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年比▲10%以上下回るとみられる。ただし、受注は高水準を維持する見込み。外需は、メインのアジアや米国で力強さがなく、前年比▲10～20%ほど下回る見込み。内需は、設備投資マインドの向上が後押し、前年実績は維持する見込み。

業種	業界天気	エアコン、冷蔵庫も前年実績を確保する見通し
民生用電器部品	⊙	(現況)・家庭用エアコンの出荷台数は、天候不順で低迷した時期があったものの、7月後半からの猛暑で前年を若干上回った模様。また、冷蔵庫の出荷台数も、401ℓ以上の大容量モデルが伸長、前年を+1割程度上回って推移した。
	→ ⊙	(見通し)・家庭用エアコンの出荷額は、高機能製品の売れ行きが回復しており、前年並みを確保する見通し。冷蔵庫の出荷台数も、大容量モデルが引き続きけん引、前年並みは維持できそう。これに伴い、部品メーカーの受注量も前年並みは確保する見通し。

業種	業界天気	国内販売が低迷、国内生産は前年をやや下回る見込み
自動車部品	☁	(現況)・国内の自動車生産台数は、前年を▲5～10%下回った模様。輸出は前年並みだったものの、内需は、軽自動車の落込みが続き、前年を下回って推移した。部品メーカーの出荷高も、前年を下回ったとみられる。
	→ ☁	(見通し)・国内の自動車生産台数は、前年をやや下回る見通し。内需は、特に軽自動車で、今年4月の軽自動車税増税に伴う販売低迷が尾を引いており、低調に推移する見込み。輸出も、北米向けを除き、増加は期待できない。部品メーカーの受注量も、前年をやや下回ると予想される。

業種	業界天気	内外需ともに低調で、国内生産は前年をやや下回る
二輪車部品	☂	(現況)・7～9月の全国完成車生産台数は、前年を▲1割程度下回って推移した模様。国内販売が低調だったほか、インドネシアなど東南アジアの新興国向けが伸び悩んだ。県内部品メーカーの生産量は、前年をやや下回って推移した模様。
	→ ☂	(見通し)・10～12月の全国完成車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。一部メーカーで国内生産回帰の動きが始まったが、東南アジアなどの新興国向けが期待できず、国内販売も前年を下回るとみられる。県内部品メーカーの生産量も、前年をやや下回って推移する見込み。

○ 好調 ○ 順調 ⊙ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	公共は災害対策工事に期待、民間は高水準の前年に及ばず
建設	○	(現況)・公共工事契約額は、前年を上回った模様。新東名の高架橋建設や浜松市の防潮堤整備といった大型工事が全体を押し上げた。民間の工事費予定額は、医療・介護分野の落ち込みが大きく、前年を下回った模様。
	→	(見通し)・公共工事契約額は、前年を上回る見込み。暴風雨による被害発生などを踏まえ、災害対策工事の発注が一部で予想される。民間の工事費予定額は、前年を下回る見通し。熱海・掛川で再開発事業があり前年が高水準だったため、工事件数の落ち込みは限定的にとどまるとみられる。

業種	業界天気	着工戸数は緩やかな回復基調が続く見込み
住宅	☁	(現況)・新設住宅着工戸数は、前年並みの水準となった模様。分譲は、大型マンションの着工があったものの戸建が振るわず、前年をやや下回ったが、持家と貸家は、駆け込み需要の反動で低調だった前年実績を上回った模様。
	→	(見通し)・新設住宅着工戸数は、前年を上回る見通し。持家は、展示場の来場者数が回復しつつあり、緩やかな増加基調が見込まれる。貸家も、相続対策の需要がまだまだ根強く、前年水準を上回る見通し。分譲は、戸建を中心に在庫を積み増す動きがみられそう。

業種	業界天気	個人消費の緩やかな回復に伴い、前年をやや上回る見通し
大型小売店	☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年を+1割程度上回った模様。百貨店は、化粧品や宝飾品等の販売が伸長し、前年を上回った。また、総合スーパーは、7月中旬以降の猛暑で、夏物衣料や涼感寝具などの販売が底堅く推移した。
	→	(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや上回る見通し。百貨店は、宝飾品や特選ブランドなどを中心に、低調だった前年を上回って推移する見込み。総合スーパーは、個人消費の緩やかな回復に伴い、主力の飲食料品の販売増加が見込まれ、前年実績を確保するとみられる。

業種	業界天気	雇用・所得環境の改善を背景に、前年をやや上回る見通し
食品スーパー	☁	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回った模様。7月中旬以降の猛暑で、清涼飲料水やビール、氷菓などの販売額が前年を大きく上回った。また、消費者の根強い内食志向を背景に、惣菜などの販売も好調だった。
	→	(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、雇用・所得環境の緩やかな改善を背景に、前年をやや上回る見通し。ただし、夏場の猛暑や9月の天候不順の影響で価格が高騰している農産物や、メーカーによる値上げが相次いで実施されたパンやパスタなどでは、買い控えが懸念される。

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期



業種	業界天気	軽自動車の不振が続く中、登録車の新モデルに期待が高まる
自動車販売	☁ → ☁	<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲6.0%下回った。登録車はハイブリッド車に人気が集まり前年比微減にとどまったものの、消費税や軽自動車税の増税に起因した不振が続く軽自動車は▲1割減となり、全体を押し下げた。</p> <p>(見通し)・県内の乗用車販売台数は、前年をやや下回る見通し。軽自動車は、増税の影響が根強く残り、引き続き前年比▲1～2割の減少が予想される。登録車は、12月に発売される大衆車の新モデルが話題となっており、買い替え需要の喚起に期待がかかる。</p>

業種	業界天気	薄型テレビや生活家電を中心に、前年をやや上回る見通し
家電量販店	☁ → ☁	<p>(現況)・薄型テレビの販売額は、4Kテレビが支持を集め、前年を+1割程度上回った。また、7月中旬以降の猛暑で、エアコンや扇風機の販売額が前年を大きく上回り、家電販売額全体では前年を+1割前後上回った。</p> <p>(見通し)・薄型テレビの販売額は、引き続き4Kテレビへの買い替え需要の増加が期待され、前年実績を確保する見通し。パソコンは苦戦が予想されるものの、冷蔵庫や洗濯機、掃除機、調理家電などは、低水準だった前年をやや上回るとみられ、家電販売額全体も前年を上回って推移するとみられる。</p>

業種	業界天気	年末にかけて荷動きに期待、倉庫は前年水準を確保
運輸・倉庫	☁ → ☁	<p>(現況)・トラック輸送量は、輸送機械や紙・パルプなどが低調だった一方、食料品が堅調に推移し、前年並みは確保した模様。普通倉庫の入出庫高は、鉄鋼や電気機械の荷動きが鈍く、前年をやや割り込んで推移したとみられる。</p> <p>(見通し)・トラック輸送量は、年末にかけて荷動きに期待がかかるが、ウエートの高い輸送機械などで低迷が予想され、全体では前年をやや下回る見通し。普通倉庫の入出庫高については、電気機械や食品関連の荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる見通し。</p>

業種	業界天気	ソフト開発は引き続き堅調に推移するも、SE不足は深刻化
情報サービス	○ → ○	<p>(現況)・7～9月の全国の売上高は、主力のソフト開発が好調だったことから、前年を+5%程度上回ったとみられる。県内も、製造業、サービス業、金融関連などで案件が相次ぎ、前年をやや上回った模様。</p> <p>(見通し)・10～12月の全国の売上高は、引き続きソフト開発が堅調に推移すると見込まれることから、前年実績をやや上回る見通し。県内も、首都圏を中心に大型案件の需要が高まると予想され、繁忙が続くとみられる。雇用面では、SE不足が深刻化しており、案件があっても受けられないケースも発生している。</p>

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☁不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	大手チェーン店の巻き返しで売上高は前年比プラス
外食	○	(現況)・主要外食店の売上高は、前年をやや上回った模様。天候と気温が不安定で夏季商品の伸びは今一步だったが、賃上げやボーナス増額、プレミアム付き商品券などによる実質所得の増加で、客単価が伸長した。
	→	(見通し)・主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。苦戦していた大手チェーン店の巻き返しが本格化するとみられ、来店客数の回復から売上高の微増傾向が続く模様。ただし、夏場の天候不順や台風の影響で農作物の高騰が避けられそうになく、採算的にはかなり厳しい状況になる見込み。

業種	業界天気	吊り橋の集客効果はあるが、食材コストが重く収益は厳しい
観光・レジャー	○	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年を上回った見込み。天候に恵まれなかったものの、シルバーウィークで休日が前年より多かったことや、葦山反射炉が世界文化遺産の構成資産に登録されたことがプラスに作用した。
	→	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回る見通し。12月中旬から営業を開始する三島市内の日本一の吊り橋は、集客面でプラスに作用する見込み。ただし、天候不順や為替の影響で食材価格は高値が続くため、宿泊客が増加しても収益面では厳しい展開になる模様。

業種	業界天気	前年は上回るも、海外への設備投資が鈍化傾向
リース	☁	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年実績をやや上回って推移した模様。リーマン・ショック前の水準にようやく戻りつつあるが、低レートでの案件獲得競争は大手を含めて激化しており、収益面では厳しさが続いた。
	→	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回る見通し。製造業は、輸送用機器を中心に海外への設備投資が鈍化しているとみられ、弱含みの状況が続く。一方、非製造業は、医療・介護などの分野で案件増加が期待される。レート競争は激化しており、収益面は厳しさが増すとみられる。

業種	業界天気	多くの職種で高い需要あるものの、人手不足で伸び悩み
人材派遣	○	(現況)・7～9月の県内の実働派遣労働者数は、前年を+5～10%上回った模様。営業・販売業務や事務系業務で需要が高く、製造業務も同様に、前年水準を上回って推移したとみられる。しかし、供給サイドの人材確保が難しく、伸び悩んだ。
	→	(見通し)・10～12月の県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移するとみられる。今後も、製造やIT、介護などの分野で高い需要が見込まれる。一方、供給サイドでは、人材の確保が難しく、人材需給は逼迫した状況が続く見通しのため、企業の人手不足は継続するとみられる。

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☁不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

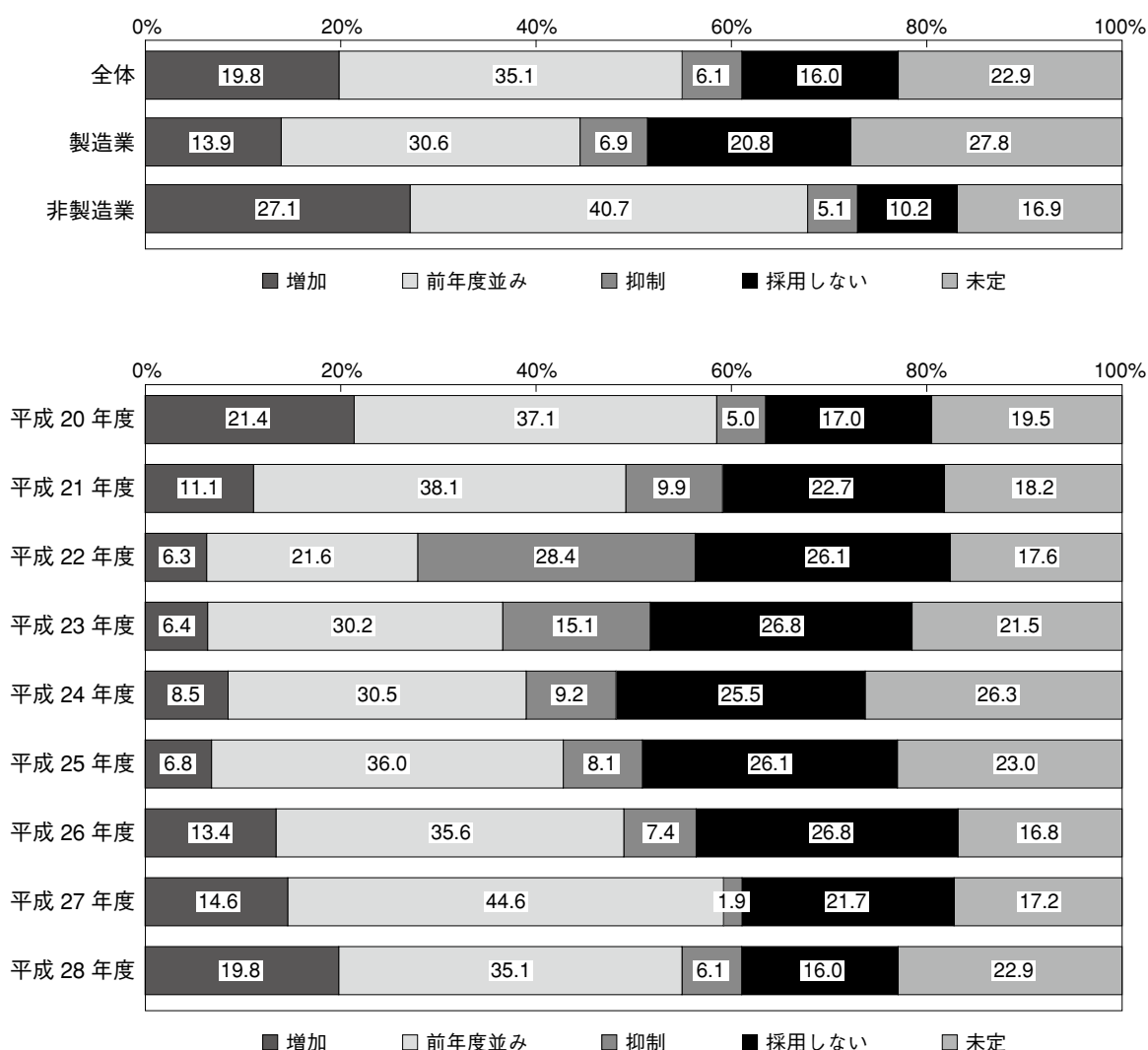
## ウォッチング

## 新卒者の採用「増加」方針は、リーマン・ショック前のレベルに戻る

平成28年度の静岡県内企業の新卒者採用方針は、27年度より「増加」とする企業が19.8%と、前年度の14.6%を5.2ポイント上回った。これは、リーマン・ショック直前の20年度（21.4%）以来の高水準にあり、新卒需要が高まっている。また「採用しない」は16.0%と、ここ10年間で最も低く、人材確保に向けて多くの企業が動いている。

業種別では、非製造業で「増加」方針が27.1%と、製造業の13.9%の2倍近くに達し、「前年度並み」（40.7%）と合計すると、7割近い企業が27年度の水準以上の採用を考えている。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針



調査要領：調査時点平成27年9月、調査対象企業数319社、回答社数131社、有効回答率41.1%